

広島大学病院 エイズ医療対策室 内線5351

中四国エイズセンターホームページURL : www.aids-chushi.or.jp

「第37回日本エイズ学会学術集会・総会」@京都 参加報告

薬剤部

HIV感染症薬物療法認定薬剤師

石井 聡一郎

広島に戻ると程よい疲労と充実感で満たされていました。

12月3日～5日に京都で開催された第37回日本エイズ学会学術集会・総会に参加しました。今回の学会では、個人としては一般演題とシンポジウムで計2つの発表があり、これまで以上に学会への想いが強かったように思います。

発表の機会をいただいたシンポジウムでは、MSWの重信さんとともに仮想症例を提示し、参加者に課題に対する対応策を考えていただきました。薬剤師はどうしても薬の事ばかりに目がいてしまいます。しかし、治療を進めるためには、患者さんの生活を把握し、金銭面などの社会心理面の課題をきちんと理解することが必要であることを改めて理解していただけたと思います。

また、全国の薬剤師が多くの演題を登録しており、これまで先輩方が積み重ねてきた研究マインドが引き継がれていること、若い薬剤師も増えてきており後進育成も進んでいることを実感しています。全国の仲間とともに患者さんの支援を続けていきます。

学会に参加し、新たな知見を数多く学ぶことができました。HIV診療に関わる薬剤師として、患者さんへ還元できるよう引き続き取り組んでいきたいと思っています。



エイズ医療対策室

臨床心理士/公認心理師

喜花 伸子

昨年12月に開催された日本エイズ学会に参加してきましたので、報告いたします。

この数年は、コロナ禍のため、現地参加の方が少ない印象でしたが、今回は会場でさまざまな方と交流ができました。メールのやり取りをしてきた方と初めて顔を合わせたり、数年ぶりに直接会えた方とお話ししたりする中で、いろいろな情報を聞くこともでき、とても充実した学会参加になりました。

また、今回は、シンポジウム「HIV診療におけるメンタルヘルス～HIV診療と精神科の連携」で、演者の役割をいただき、心理士の立場から当院の実践について報告してまいりました。他のシンポジストの先生方からは、HIV関連神経認知障害（HAND）、依存症支援、心理士と精神科医の連携、精神科との地域連携といったテーマの講演があり、私の分担はチーム内の連携というテーマでした。どのような時に他職種が心理士面談を必要と判断し、心理士がどのように支援しているのかについて、特に精神科受診の必要性のある患者さんへの支援を中心に報告させていただきました。拙い発表ではありましたが、当院のHIV医療チームの実践を振り返ることができました。このような機会を与えていただいたことに感謝しています。

学会のプログラムには興味深いものも多く、その全てには参加できないのは残念でしたが、さまざまな専門性からのご発表や当事者のお声を聴くことができ、貴重な機会だったと感じています。これからも、情報をアップデートしながら、HIV陽性患者さんやその関係者の支援に取り組んでいきたいと考えています。



エイズ医療対策室 ソーシャルワーカー 重信 英子

～ソーシャルワーカーができる支援について～

今年のエイズ学会は、HIV診療の中でソーシャルワーカー（以下、SW）の支援について、発表する場を多くいただけた有難い機会となりました。その中の一つとして、合同シンポジウム

「HIV陽性者のACPにおける課題への支援」では、私が支援した終末期を迎えた患者に対するACPの取り組みをご報告いたします。

昨今、「患者による意思決定」がよく聞かれますが、私が実際に死を目の前にした患者を支援した際、相談できる家族や支援者がいない孤独な状況は、患者の不安を大きくさせ、その中で自分で治療や生き方を選択するには高いハードルを生じさせていました。結果、医療者が最善と思う選択肢と、患者の決定に相違が生じることに。SWとして何ができるのかを悩みながら支援した結果、患者の心構えを形成するまでのプロセスの支援を担うことで、ACPに関与することができました。



具体的には、患者との面談の機会を持ち、患者の社会的な背景とそこから生まれた患者の価値観の把握および共有に努めました。そうすることで、孤立していた患者に寄り添うことができ、患者の葛藤をチームで共有する橋渡しとして、貢献できました。患者と医療者が意識統一することで、患者の意思決定を支援できた事例でした。

会場からは、HIV疾患が持つ偏見による不安で死後のことを考えたくない、考えられないという状況に留まる方が多いというご意見をいただきました。それについては、老後や死後に関する現実的な問題に対して、日頃の面談時から段階的に提示することで、患者自身が自分の人生を自分事として考えることができるよう、SWは積極的に患者の意思を確認していく必要があると答えました。今後も、診療チームの一員でありつつ、患者と医療者を繋ぐ働きができるSWでありたいと強く思った、エイズ学会でした。貴重な経験をさせていただけたことに感謝申し上げます。

「令和5年度中国・四国ブロックエイズ治療ブロック/ 中核拠点病院等看護担当者会議」開催報告

エイズ医療対策室 看護師 後藤志保

今年度は、主担当施設 高知大学医学部附属病院、副担当施設 島根大学医学部附属病院で開催し、中四国ブロック内のブロック/中核拠点病院の全14施設中、12施設の29名が参加しました。昨年に続き、参加者の希望からWEB開催となりました。

藤井先生の「HIV最近のトピックス・三者協議の報告」および坂本看護師による「ACC/ブロック拠点病院 看護会議報告」の講義に続き、中核拠点病院における現状把握と課題の抽出・検討について、事前に参加者に行ったアンケートを元にテーマを決定し、それぞれのテーマについてのグループ検討を行いました。

テーマは【患者対応】【兼務での問題(時間確保・人材確保)】【チーム医療】【地域連携】【拠点病院との連携】の6テーマについて6グループに分かれて各グループが話し合いたい内容について検討しました。

アンケートの結果からグループ検討は77%の参加者がとても有益であったと回答しており、感想として「各病院の担当者が抱える課題を共有し討論することができ、参考にできることも多かった」「患者との関わり方についてのヒントを得ることができた」と回答があり、各施設の現状や課題を共有することは、自施設での具体的な解決策を見いだせる機会にもつながり毎年行う意義があると感じました。

来年度も主担当・副担当施設と連携し、有意義な会議にしていきたいです。



HIV初診オリエンテーション「外来受診される方へ」の多言語を作成しました！

エイズ医療対策室 看護師 坂本 涼子

初診時に、「外来受診される方へ（日本語）」を使用して、チームスタッフの紹介やチーム医療、受診に関すること（初診～2回目以降）について看護師がオリエンテーションをしております。近年は外国からの患者さんも多く、多様性を尊重し、より良い医療サービスを提供するために、







多言語（英語、インドネシア語、スペイン語、フィリピン語、ポルトガル語、ベトナム語）に対応しました。これにより、患者さんとのコミュニケーションが円滑に行えるのではないかと考えております。今後も患者さんが安心して受診できる環境を整えていきたいです。

To All Outpatients (英語)


*Team staff (doctors, nurses, psychologists, social workers, pharmacists, dentists, dental hygienists) will provide support for you to self-manage your mental and physical health. Information obtained from you that is deemed necessary for treatment will be shared among staff members so that they can treat you as a team.

*Staff from each profession will grant you consultations as necessary. If you have any problems or anything about which you would like to consult, please feel free to let the staff know. (If you would like to have a consultation, please ask the clerk to arrange this at the 101 reception desk when you visit the hospital, or make an appointment in advance.)

[Main roles of each profession]

<p>Doctor </p> <p>Our doctors will examine you and make a decision on a treatment plan together with you. If you have any questions or concerns about treatment, please feel free to ask the doctors.</p>	<p>Nurse </p> <p>Our nurses will support you not only physically but also in your daily life in general. If you have any problems, please feel free to mention them.</p>	<p>Psychologist </p> <p>Our psychologists will help you organize your feelings and help you find solutions to your problems so that you can live a better life. They also provide psychological testing and support for recovering from medicines and alcohol addictions. Please feel free to talk to them.</p>
<p>Social worker </p> <p>Our social workers will provide information on the social systems that can be utilized to lessen the financial and psychological burden you may face when visiting a doctor or in daily life. You can consult with them about problems in daily life or employment.</p>	<p>Pharmacist </p> <p>Our pharmacists will support you so that you can continue taking your medicine. Please ask them if you have any concerns about medications, such as drug combinations.</p>	<p>Dentist/dental hygienist </p> <p>Our dentists/dental hygienists will explain the importance of keeping your mouth clean and having regular checkups. If a dental visit is necessary, they will provide oral hygiene management, including referring you to our dental clinic or to a local dental clinic.</p>

[Matters related to medical examination]

<p>First visit</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ A nurse will explain the flow of the examination. Then, the nurse will ask you about your condition and explain what is needed for treatment and daily life. □ A doctor will perform a medical examination. Tests (blood sampling, X-ray, etc.) will be performed as necessary. □ A psychologist or social worker will give you a consultation. A pharmacist or dental hygienist will give you a consultation as necessary.
<p>Second visit and beyond</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ A nurse will give you a consultation. □ A doctor will perform a medical examination. □ Consultations will be conducted with staff from each profession as necessary. □ Tests including blood sampling will be performed. 

[Contact]



Monday to Friday: Hematology (outpatient): 082-257-5475
 Dentistry (outpatient): 082-257-5703
 Care Team Office: 082-257-5555 (Representative)
Nights and Holidays: After-hours reception: 082-257-5092

*Please contact the Hematology Outpatient Department if you wish to change your appointment with the Hematology Department.
 *Please contact the reception or 082-257-5555 (representative) if you wish to contact or change your appointment to another department.
 *If you wish to change your follow-up appointment, please contact the department concerned on a weekday.

「外来受診される方へ」の英語版です。
 6言語に対応しました。



令和5年度包括的HIVカウンセリング研修会@山口のご報告

エイズ医療対策室 臨床心理士/公認心理師 杉本悠貴恵

皆様、こんにちは。エイズ医療対策室の杉本と申します。

このたび、中国四国ブロック内の研修会の一つである「包括的HIVカウンセリング研修会」を開催したので、その時の様子をご報告いたします。

この研修会は、1泊2日の合宿形式で開催し、今年度は山口県で開催することができました！この研修会は、HIV診療に携わる職種にご参加いただき、症例検討を行いながら、専門職としてのアップデートに加え多職種理解を深めていただくことを目的に開催しています。コメンテーターに山中京子先生をお招きし、はじめに『多職種連携』について海外の研究データも含めながらご講演いただきました。“患者支援”という目的は同じであっても、学んできた過程や理念、役割の異なる職種が連携する際に、時としてコミュニケーションエラーや対立生じることは、どの分野でも起こりうることはないかと感じています。そんな時こそ、個人対個人ではなく、専門職同士としてコミュニケーションを行い、異なる立場を理解することが重要だそうです。日頃のコミュニケーションも大切ですが、対立が起きた時こそ、さらに連携を深めるチャンスとして、専門職として対話を深めることを意識していきたいと思いました。

貴重な講義をいただいた後に症例検討を行ったので、どの職種からも「生活環境の変化が生じた場合は他職種と連携が必要」などの感想もあり、多職種連携や専門職としての支援方法をイメージされた方も多い様子でとても嬉しかったです。また、今回、久しぶりにお会いする方々に加えて、新しくご参加くださる病院の方々もおられ、皆様と熱いディスカッションを行うことができました。

改めて、ゲストコメンテーターをお引き受けくださった山中京子先生、スタッフの皆様・参加者の皆様に感謝申し上げます。さて、来年度はどの県で開催するか考えなければ！

最後に…、工場を見るのが趣味な私は、新幹線の車窓から突如、素敵な工場地帯が現れてテンションMAX！！思わず撮った写真も載せています。



新幹線の車窓から一枚！



ディスカッションを職種ごとにしています。

